

本と出会い 豊かな感性を

2010年は国民読書年

2010年は「国民読書年」です。読書は、私たちの人生をより豊かなものにするだけでなく、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにしてくれます。人生をより深く生きる力を身に付けていく上で読書は欠くことのできないものです。

市では、乳幼児期から本に親しみ、市民の皆さんが生涯を通じて読書に親しめるようブックスタート事業などの取り組みを行っています。

すべての赤ちゃんに

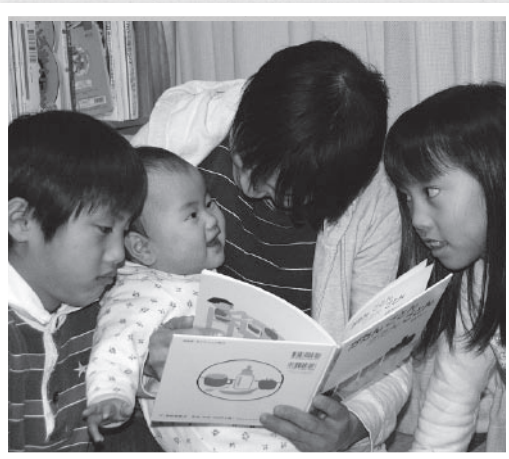
絵本を開く楽しい体験を

〈ブックスタート事業〉

市では、赤ちゃんとも保護者の方に、絵本を通じて心ふれあうひとときを持っていただくこと、昨年度からブックスタート事業を始めました。

この事業は、保健センターで実施される4か月健診のときに、一人ひとりの赤ちゃんに絵本のプレゼントと読み聞かせを行うもので、昨年度の1年間で492人の赤ちゃんに絵本が贈られました。

甲南町にお住まいの田中佑実ちゃん（10か月）もその一人です。佑実ちゃんには、小学3年のお姉ちゃんと1年のお兄ちゃんがおられ



▲お姉ちゃんたちに絵本を読んでもらい笑顔の田中佑実ちゃん

だれもが、いつでも、どこでも本に親しめるサービスを

〈市立図書館〉

この計画では、「子どもが読書に親しむ環境づくり」、「家庭・学校・地域の連携の促進」、「子どもの読書活動への啓発、支援、情報発信の推進」を基本方針に、本が大好きな「甲賀っこ」を育むことを目標としています。

県の調査によると、平成20年度の市内の小中学生の1か月平均読書冊数は、小学生で8・8冊（県7・3冊）、中学生で2・7冊（県2・5冊）と、県の平均をわずかに上回っており、読書が好きな児童生徒の割合はやや高いといえます。活字離れが進む中、より読書好きな子どもが増えるよう、計画では、平成25年度には小学生で10冊、中学生で3・5冊を目標に設定し、子どもたちの読書活動を推進していきます。

読書は豊かな人間性を養う

今、言語力を養うために、読書の価値が見直されています。本は、単なる知識や情報だけでなく、さまざまな言葉や表現を教えてくれます。本を読むことは、知識や教養、他者を理解し思いやる心を育み、豊かな人間性を養うことにつながります。

市では、赤ちゃんのときから本にふれあう機会づくりや、学校での読書活動、さらには本が大好きな子どもを育む計画などを通じ、一人でも多くの方が読書への関心を高める事業に今後も積極的に取り組めます。



5つの図書館は、昨年2月のシステム統一により、どの図書館でも本を借りたり返したりできるようになりました。今年1月からは、インターネットで資料の予約や貸出状況の確認などができるサービスを開始し、4000人を超える皆さんに登録いただいています。

また、これまで水口・甲賀・信楽地域で運行していた移動図書館は、今年度から土山・甲南地域の3小学校への巡回を始めました。図書館は情報の宝庫です。だれもが、いつでも、どこでも本に親しめるサービスを用意して、皆さんのご利用をお待ちしています。

絵本が並ぶ甲南図書館交流館

「私が読んであげるときよりも、声を出してうれしそうに反応をするんですよ」と3人を見つめて笑顔で話されます。健診で出合った1冊の絵本を通して、佑実ちゃんの成長だけでなく、きょうだいの絆も感じておられます。

すべての学習の基礎となる 読書活動を推進

〈小中学校〉

教育委員会では、「読書」を基本的な生活習慣として位置づけています。

読書は、すべての学習の基礎です。脳を活性化させ、知識や読解力を育み、また意欲・興味・感性を促します。このことから、すべての学校において、朝学習や教科内での読書活動を組み込んでいます。また、子どもたちに読んでほしい推薦図書を選定や読み聞かせ、PTAによる親子読書など、本を読もうとする雰囲気高める実践を行う学校もあります。

本が大好きな「甲賀っこ」に

〈子ども読書活動推進計画を策定〉

昨年3月、教育委員会では「甲賀市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

